平成３０年度岐阜県地域づくり人材養成講座・瑞穂市人材育成研修

「地域の絆づくりを学ぼう」　第３回ワークショップ開催概要

日　　時	平成３０年１１月８日（木）　１３：００～１５：３０
場　　所	瑞穂市民センター　第２会議室
コーディネーター	ＮＰＯ法人ぎふＮＰＯセンター理事長　野村 典博 氏
受講者	１７名
主 催 者	岐阜県環境生活部県民生活課 瑞穂市企画部市民協働安全課

内　　容

１　活動発表

地域で先進的な活動をされている３名の方からお話を伺いました。

〇芥見東まちづくり協議会会長　山田 正行 氏(岐阜市)

＜地区の概要＞

・昭和４０年代にできた県下最大級のマンモス団地。地区内にスーパーや病院、スポーツクラブがあり住環境は整っているものの、坂が多く徒歩での外出は大変。

・平成 30 年４月１日現在で高齢化率は４０．５１％。岐阜市(全５０地区)では、中心市街地の２地区に次いで３番目に高い地区となっている。

▲活動発表者の山田氏

＜特徴的な活動内容＞

・コミュニティバス「みどりっこバス」の運行

高齢者の足の確保に重点が置かれ、バス停を小刻みに配置したり、利用者が多い午前中には、乗降等のお手伝いをするヘルパーが同乗したりと利便性を高めている。夏休み期間は地元中学生もヘルパーとして活躍している。ヘルパーが気づいたことはヘルパーノートで情報共有し、運営協議会を通して反映していく。運行を始めた平成２０年６月から毎日１７０名程度の方が利用し、住民の足となっている。

・ゆるキャラ「みどりっこちゃん」の作成

「みどりっこバス」のキャラクターとして「みどりっこ」を作成。住民たち手作りで缶バッチや携帯ストラップを製作するだけでなく、「みどりっこちゃんの歌」や「みどりっこ音頭」も地元住民が作詞作曲し、地元に密着したキャラクターとなった。

・新たな住民確保のための取組み

暮らしやすさや魅力をＰＲするリーフレットを作成し、配布を始めた。また、若い世代に居住してもらえるよう今年初めて婚活イベントを実施し、イベント参加者から高評価を得ている。

＜これから＞

・一緒に地域の在り方を考え、行動する若者を募集したが、応募者はなかった。どうすれば若者に興味をもってもらい、参加してもらえるか検討中。

・今後は増えている空き家の保守管理や転売等のコミュニティビジネスも行っていきたい。

・まちづくり協議会に新たに地域の企業やその他組織にも参画してもらった。地域が一体となったまちづくりを進めていきたい。

▲活動発表者の清水氏

〇各務原市八木山地区社会福祉協議会事務局　清水 孝子 氏(各務原市)

＜地区の概要＞

・昭和４０年代に、里山を造成してできた住宅団地のために、坂道が多く、車に乗れないと買い物・通院などが不便。

・高齢化率は４０％を超え、各務原市内で最高の高齢化が進んだ地区となっている。

＜ささえあいの家＞
　平成２６年１月に空き家を借りて自分たちで改装し、活動の拠点として開所。地域の人々が気軽に立ち寄り交流できる場とした。囲碁や絵手紙等趣味として楽しめる教室や認知症等暮らしに関する内容を話し合う「暮らしを語る会」など、様々な催しを行っている。ささえあい活動センターとして、活動の申し込み受付、ボランティアコーデネーター、そして人々の相談場所としても利用している。

・開所に向けて話し合いを繰り返す中で「できる人ができることをやる」「新しいことをしようとしたらできない理由を挙げるのではなく、とにかくやってみる」という意識を共有した。
・住民の考え方は様々でオープンは難航した。現在も意見が違う人と折り合いをつけていくことの難しさを感じつつ、日々学びの精神で取り組んでいる。
・物がある人は物を、技ある人は技を提供しささえあいの家を創った。開所時に塗装や修理を担当した人たちで、「営繕の会」を結成し、現在も同施設の営繕を担当すると共に住民の困りごとに対処している。

キーワードは「つながる」「ささえあう」
・同施設を拠点に、網戸張りや草取り等人々の生活の困りごとの支援を実施。スタッフは７６名。今年は台風による被害の修理が特徴的だった。利用者の多くが、「地元の人が私の困りごとに関わってくれ心強い。」と口々に言う。活動する者たちは、作業を通して心が通じ合えることに喜びを感じ、依頼者に喜んでもらえることに大いに生きがいを感じている。
・高齢者や子どもだけでなく子育て支援もしたい。若い世代とつながるため、出産祝いとして手作りのよだれかけをプレゼントしている。託児研修会を開催し、子育てサポーター養成講座を受講して、託児で子育て支援を始めた。
・支援する人、される人の区別はない。自分のできることをやれば、みんなが支援者になり、ささえあうことができる。
・この地を終の住処にできるように、地域のみんながつながり、ささえあう大きな渦を創ることをめざしている。

○土川商店　土川 修平　氏(池田町)

▲活動発表者の土川氏

＜手がけたイベント＞
　池田山麓クラフト展、鎮守の杜の展覧会、草の根交流文化サロンinSEINO、池田山麓物語(願成寺古墳群美術展、古墳レクチャーほか)など

＜イベントを開催する上での必要な視点＞
・地域づくりイベントという言葉をよく聞くが、地域づくりを全面に出すと「地域づくり」の名による妥協が生じ、イベントの質が下がることもある。いかに地域外の人に参加してもらえるかが重要であり、結果として地域づくりになるのはよいが、始めから地域づくりを全面に出すことはよくない。
・イベント開催にあたっては、なぜ、何のために開催するのかが大事。「地域の視点」「参加者の視点」「来場者の視点」「社会の視点」の４つの視点で検討するとよい。地域だけでなく、社会のためと思えば、やりとげられる。
・イベントは一過性で終わりがちだが、「空間的広がり」「時間的広がり」の２つの視点で検討することで、克服することができる。
・終了後、評価と検証をしないイベントが多くある。何をもって成功とするのかを事前に検討し、事後にどんな成果と課題があるのか検証する必要がある。
・イベント運営が行政主導でも住民だけでも限界がある。組織的・地域的な枠組みを越えた連携が必要である。
・新旧住民によって価値観は違う。そういった感覚のずれを解消し、新しい共通する価値観を見つける必要がある。

２　質疑応答・意見交換

　活動発表者に各グループを回っていただき、受講者と交流してもらいました。発表を聞いて疑問に思ったことを質問したり、自分たちの地域との違いを話したりと、どのグループも活発に意見交換が図られました。

◎野村先生コメント

▲コーディネーターの野村先生

　活動発表を聞くだけでなく、グループに分かれた質疑応答・意見交換を行ったことにより、その活動に至った経緯等本音ベースの部分も聞けたのではないか。自治会やまちづくり協議会の可能性、ささえあう仕組みをどうやって作っていくか、地域資源をどう活用していくか、それぞれの立場での活動発表は大変有意義であった。